

一般質問発言通告書

発言順位 / 番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

平成27年 2月19日

三島市議会議長 土屋俊博 様

三島市議会議員 7 番 佐野 淳祥



質問事項1	選ばれるまち「三島」～人口減少対策、子育て支援策への課題～
具体的内容	「社会」とは、複数人間が集まり、秩序化と組織化された状態を指す。高度に発達した我が市もこの定義の範疇にあり、これから人口が減っていくとされる将来に向かっても、今までの機能を維持し、さらには発展をしていき、市民ひとり一人が充実した社会生活を営めるようよう整備していくのが、政治の最大の役割である。
	2014年の静岡県人口は前年に比べ2万人減り、全国ワースト2。三島市においても、25年後には、8万9,500人となり（国立社会保障・人口問題研究所発表）、子どもの数が3分の2、生産年齢人口も3分の2、後期高齢者数は7割増える推計（静岡県発表）が示されている。この数字は、市民サービス、インフラ、ファシリティ、福祉、税金など、まちとしての骨格を揺るがす根幹的な問題であり、その時の行政によるその場での対策では対応しきれず、長期的な計画をもって進めなければならない重要な課題である。
	4年前の11月定例会一般質問で深刻な人口減少の推計を取り上げたが、新たな推計が国と県から発表された今、この地政学的に恵まれた三島市の優位性を最大限発揮し、将来へ活気あるまちを残すことができるよう、以下のように質問と提案をする。
	1 喫緊の課題である少子高齢化、人口減少問題を三島市ではどのように捉えているのか。
	2 少子高齢化、人口減少問題解決のため、どのような対策が必要でどのように施策を講じているか。
	3 首都圏へのアピールとして富士山、駿河湾、箱根、伊豆半島（温泉地や下田海岸）などの日本有数の魅力を前面に押し出すことが、新幹線駅を有する三島市にとって必要だと考えるが、東海道沿線、伊豆半島の市町行政と連携した流入人口対策は図ることができないか。
	4 子育てのしやすいまち、若い世代に選ばれる快適な都市の創造のために、スマートシティの推進、教育と就学システムの柔軟性、水辺環境の更なる整備、市民を中心とした文化芸術の発展施策を求めるがどうか。
	5 最重要課題である人口減少問題に対し、対策を主導していく部署の設置や、縦割り体制に横串を入れていく体制整備が必要ではないか。
	6 国は昨年12月に長期人口ビジョンと総合戦略を策定し、閣議決定をした。今後県をはじめ、市町村でも同様の計画策定が求められる。そこで、将来人口についての目標を掲げ、目標実現に向けた政策立案、総合的・戦略的な取組が必要と考えるが、三島市はどのように対応していくのか。